

●シリーズ●わが町の文化財へ83

世羅町重要文化財 広福寺版木

昭和62年11月11日指定

この版木は、木製で、大きさは縦25 cm、横30 cm、厚さ3 cm。向かって右に「牛玉宝」、宝珠の印、そして向かって左側に「廣福寺」と浮き彫りにしてあります。牛玉宝印の札は竹や柳の枝にはさんで、田の蟲除けにしたり、作物の豊穰を祈ったりするために頒布したもので、山伏などの修験者が盛んに印刷を行ったものです。この広福寺と銘を付した牛玉宝印版木は、中世熊野三山の御師先達（山伏）が盛んに作成頒布したと同様の事が、広福寺でも行われていたことを証明するもので、民俗学的にも貴重な資料です。また、「備後国重永庄先達道者宿坊願文」によると、隣接する同郡の重永でも熊野信仰に基づく御師先達が活動していたことがわかっています。

なお、この資料の年代を考える上で、黒瀨の永禄4年銘の「三仏寺版木」の形がこの資料と似ていることから、同じく戦国時代の永禄頃（一五五八〜一五七〇）の版木と推定されています。



●シリーズ●わが町の文化財へ84

世羅町重要文化財 懸仏

昭和45年4月1日指定

下津田八幡神社は、『国郡志下調べ書出帳 下津田村』によると、「下津田上津田両村産土神で、祭神は仲哀天皇・神功皇后・応神天皇。玉殿には、阿弥陀・十一面観音・勢至の木像御座候」とあり、かつての神仏習合の様子がみられる神社です。そして、「御正体（懸仏）大（九寸丸）4個、小（五寸丸）5個」と記されていますが、現在は、大1個（大破）と小が5個が残っています。

この懸仏は、「三谿郡（三次市）有原村城主大江朝臣元教」が、永禄9年（一五六六）と天正2年（一五七四）の二度にわたって、軍中の守護神として奉納したことが、懸仏の背面に記された墨書によってわかります。

五寸丸の懸仏は、径15 cmの円形の木板に銅の延金を張って、中央に仏像、左右に水瓶、献花などをつけている。紐で吊るすようにしてあるため「懸仏」といい、懸仏の裏面には、仏像をあらわす梵字の下に、奉納者の名前や年月などが墨書されています。

大の方の懸仏は、小の方よりやや時代が古いのですが、本尊が欠失しているのが惜しまれます。

